

『デモクラシー以後』刊行記念！ 米ソという2つの超大国の崩壊と世界経済危機を予言した人類学者。

# Emmanuel Todd エマニュエル・トッド 待望の来日！

招聘元＝青山学院大学・同総合文化政策学部  
後援＝国際交流基金・藤原書店・フランス大使館  
協力＝日仏会館・京都大学大学院人間環境学研究所国際教育研究部

〈来日スケジュール〉＊一般公開行事のみ

- 10月15日(木) 16:30～ (於・青山学院大学／事前申込制) TEL 03-3409-6304  
〈シンポジウム〉「帝国以後」の世界——世界経済危機と『デモクラシー以後』  
パネラー＝青木保氏／辻井喬氏／松原隆一郎氏
- 10月16日(金) 18:00～ (於・日仏会館) TEL 03-5421-7641  
〈講演〉「フランス国内外におけるデモクラシーの危機」
- 10月20日(火) 15:00～ (於・京都大学／事前申込制) TEL 075-753-6661  
〈講演と対談〉「世界経済危機とアメリカ帝国の崩壊」(対談＝佐伯啓思氏)



©Gallimard

●自由貿易と格差問題を論じる日本の将来への指針！

## 『デモクラシー以後』



定価 3,360円(税込)

協調的「保護主義」の提唱

世界経済と民主主義を阻害する  
「自由貿易」というドクマを徹底批判！

若者・失業者・私企業労働者こそ、  
真っ先の犠牲者である。

健全な保護主義を唱えた、ケインズの名論文「国家的自給」を収録。

●28カ国語以上に訳された世界的ベストセラー！

## 『帝国以後』

アメリカ・システムの崩壊



定価 2,625円(税込)

アメリカという問題は、  
その強さではなく、  
むしろその弱さにこそある。

東京都新宿区早稲田鶴巻町 523

tel 03-5272-0301 fax 03-5272-0450 info@fujiwara-shoten.co.jp

藤原書店



©Gallimard

## エマニュエル・トッド (Emmanuel Todd)

1951年生。歴史人口学者・家族人類学者。フランス国立人口統計学研究所 (INED) に所属。作家のポール・ニザンを祖父に持つ。L・アンの著書を通じて歴史人口学に出会い、E・ル＝ロワ＝デュリュの勧めでケンブリッジ大学に入学。家族制度研究の第一人者P・ラズレットの指導で、76年に博士論文『工業化以前のヨーロッパの7つの農民共同体』を提出。

同年、『最後の転落』で、朝冠25歳にして乳児死亡率の上昇を論拠に旧ソ連の崩壊を断言。その後の『第三惑星——家族構造とイデオロギー・システム』と『世界の幼少期——家族構造と成長』(99年)に2作は『世界の多様性——家族構造と近代性』として合本化)において、各地域における「家族構造」と「社会の上部構造(政治・経済・文化)」の連関を鮮やかに示す、全く新しい歴史観と世界像を提示。

『新ヨーロッパ大全』(90年)では多様性に満ちた新しいヨーロッパ像を提示、『移民の運命』(94年)では家族構造が各国の移民問題に決定的な影響を与えていることを分析し、『経済幻想』(98年)では家族構造に基づく経済構造の多様性の認識から、アングロ・サクソン型個人主義的資本主義を唯一の規範とするグローバリズムを批判し、金融に過剰依存するアメリカ経済の脆弱さをいち早く指摘。

『9・11テロ』から1年後、対イラク戦争開始前の02年9月に発表された『帝国以後——アメリカ・システムの崩壊』では、「米国は唯一の超大国」といった世界の一般的な対米認識に反して、「アメリカの問題は、その強さではなく、むしろその弱さにこそある」と、アメリカの衰退、とりわけその経済力の衰退を指摘し、アフガニスタン攻撃に始まる米国の軍事行動を、自らの覇権を演劇的に世界に誇示するための「演劇的小規模軍事行動」と断定。28カ国以上で翻訳され、世界的大ベストセラーとなり、とりわけ独仏を中心に、対イラク戦争反対の理論的支柱となった。

『文明の接近——イスラーム vs 西洋』の虚構』(07年)では、『帝国以後』でのイスラーム圏分析をさらに深化させ、出生率の下降と識字率の上昇を論拠に、「イスラーム原理主義」の表層的現象ばかりに目を奪われる欧米のイスラーム脅威論に反して、着実に進むイスラーム圏の近代化を指摘。08年秋刊行の最新著『デモクラシー以後』では、サルコジ大統領誕生に体现されたフランス社会とデモクラシーの危機を分析し、「エリートが自由貿易体制に疑義を呈さないことが格差拡大、金融危機につながっている」と、需要を掘り起こし、ヨーロッパのデモクラシーを守る最後の手段として、均衡のとれた保護主義を提唱している。

## 〈トッドの好評既刊書〉

### 「アメリカ覇権」という信仰 [ドル暴落と日本の選択]

トッド/パディウ/ボワイエ/佐伯啓思/榊原英資/辻井希/浜矩子/水野和夫/松原隆一郎 ほか  
まだ底を打っていない経済危機。ドル暴落こそ真の危機だ！ 「前代未聞の規模の証券パニック」が続いてドルの崩壊が起こる」と今日を予言していたトッドによれば、この先、ドル暴落というさらに深刻な事態が待っている。アメリカ覇権を前提としてきた日本に、この破局に対する心構えはあるのか？ この危機の本質を説き、日本の選択を考える。

2310 円(2009年07月刊/isbn9784894346949)

### 「帝国以後」と日本の選択

E・トッド/池澤夏樹/伊勢崎賢治/榊原英資/佐伯啓思/西部邁/養老孟司 ほか  
「移民武装」か？ 「アメリカの保護領」か？ 世界の守護者どころか、破壊者となったアメリカからの自立を強く促すE・トッド『帝国以後』。「反米」とは似て非なるこの書を日本はいかに受け止めるのか？ 北朝鮮問題・核問題が騒がれる昨今、これらの根源たる日本の対米従属の問題に真正面から向き合う！

2940 円(2006年12月刊/isbn9784894343320)

### 文明の接近 [イスラーム vs 西洋]の虚構

「文明の衝突」は生じない！ 「米国は世界を必要としているが、世界は米国を必要としていない」と喝破し、現在のイラク情勢を予見した世界的ベストセラー『帝国以後』の続編、遂に！ 欧米のイスラーム脅威論の虚構を暴き、独自の人口学的手法により、イスラーム圏の現実と多様性に迫った画期的分析！

2940 円(2008年02月刊/isbn9784894343320)

### 世界の多様性 [家族構造と近代性]

人類史全体と世界全地域を家族構造から一望する衝撃作！ 「すべてのイデオロギーは家族構造から説明し得る！」——人類史と世界史の多様性について「ひとつの根本的な説明原理を発見」したトッドがその成果を初めて世に問い、「人類のイデオロギー上の歴史を提示」し、世界に衝撃を与えた二つの記念碑的著作『第三惑星』と『世界の幼少期』を集成。

4830 円(2008年09月刊/isbn9784894346482)

### 経済幻想

アメリカ主導のグローバル・スタンダードに拮抗しうる国民国家を提唱！ 家族制度・教育・文化・政治・イデオロギーが複雑に絡み合う現実をトータルに認識し、アメリカ経済モデル(アングロサクソン型個人主義資本主義)を「グローバリゼーション」の名のもとで蔓延させる虚妄を根源的に批判する、世界経済論を刷新する野心作！

3360 円(1999年10月刊/isbn9784894341494)

### 移民の運命 [同化か隔離か]

日本ももうすぐこの問題に直面する。移民問題を読み解く鍵を提示する！ 家族構造からみた人類学的分析で、国ごとに異なる移民政策、国民ごとに異なる移民に対する根深い感情の深層を抉る！ フランスの普通主義的平等主義とアングロサクソンやドイツの差異主義を比較、「開かれた同化主義」を提唱し「多文化主義」の陥穽を暴く。

6090 円(1999年11月刊/isbn9784894341548)

### 世界像革命 [家族人類学の挑戦]

マルクス主義以降、最も巨視的な世界像革命！ エマニュエル・トッド入門！ 家族構造からみえる全く新しい世界のイメージ！ マルクス主義以降の最も巨視的な「世界像革命」を成し遂げたエマニュエル・トッドの魅力のエッセンスを集成し、先の来日時々の講演や速水融氏との対談「家族構造からみた『日本』像」も収録。

2940 円(2001年09月刊/isbn9784894342477)

### 新ヨーロッパ大全 I・II

衝撃的ヨーロッパ観革命！ 宗教革命以来の近代ヨーロッパ500年史を家族制度・宗教・民族などの(人類学的基底)から捉え直し、欧州の多様性を初めて実証的に提示。欧州統合の問題性をも明確に示す野心作！

I : 3390 円(1992年11月刊/isbn9784938661595) / II : 4935 円(1993年06月刊/isbn9784938661755)